

経済的理由で受診控え 25%

—アンケート付リーフ調査結果—

2023年4月17日
岩手県保険医協会
会長 小山田 榮二

岩手県保険医協会では、患者負担増をはじめとする国民皆保険制度の危機に対し、待合室から情報を発信し医療をまもる取り組み「待合室キャンペーン」を行っています。待合室でわかりやすいリーフやクイズがついたチラシなどを配っています。

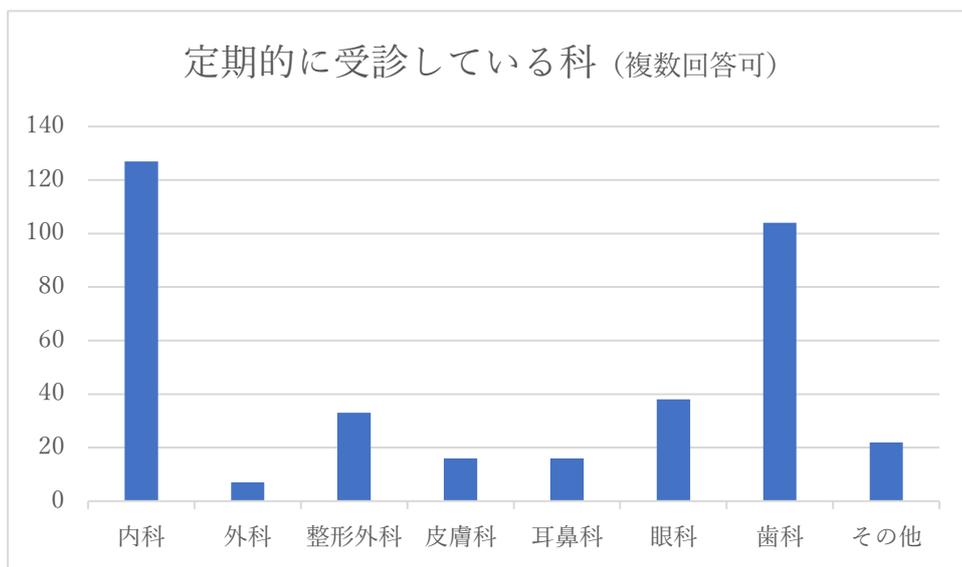
2月上旬に当会会員（県内の医師・歯科医師 867 名）へ協力依頼を行い、2月9日、岩手日報に10,480枚折り込みを行ったアンケート付リーフの返信が183通ありました。

その結果がまとまりましたので報告します。

アンケートの回答は60代以上の方からが多数を占めました。定期的に通診しているのは内科、歯科、眼科、整形外科の順でした。

Q1.年齢

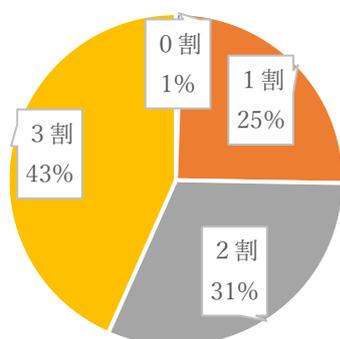
10歳未満	0
10代	1
20代	3
30代	5
40代	12
50代	15
60代	38
70～74歳	37
75歳以上	67
N/A	5
合計	183



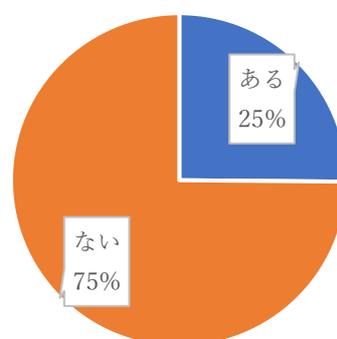
現在の窓口負担の割合は3割の方が43%、2割が31%、1割が25%でした。

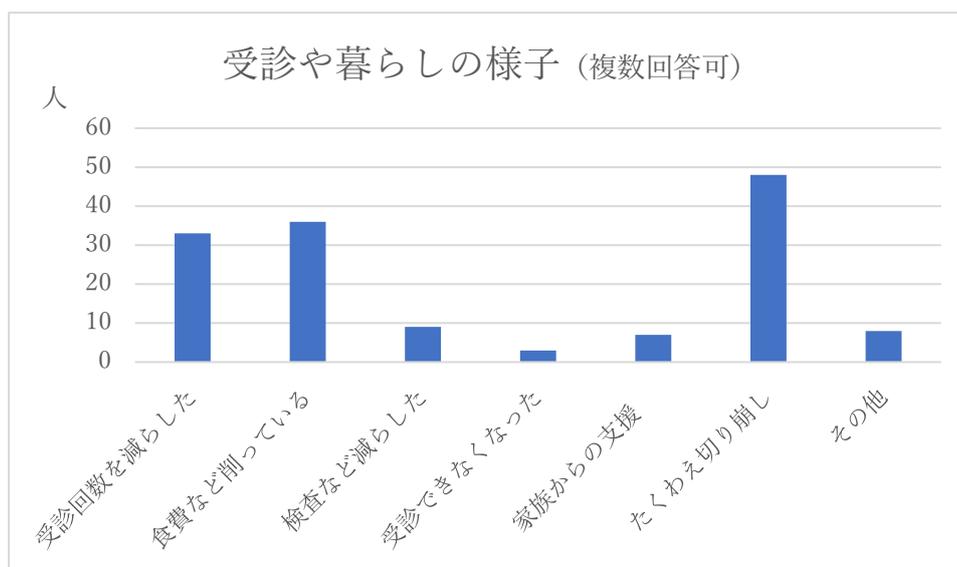
「今まで通り通診している」と回答した方が128名だった一方、「経済的理由での受診控えがある」と答えた方が46名（25%）でした。「これまでの蓄え（貯金など）を切り崩している」という方が48名、「食費などの生活費を削って通診している」方が36名、「通診回数を減らした」方が33名、「検査・薬、治療を減らすよう頼んだ」方が9名、「家族に医療費負担などを支援してもらっている」方が7名、「通診できなくなった」方が3名でした。

現在の窓口負担割合



経済的理由での受診控え





記述欄（抜粋）

1. 臨時職員なので給与も安定せず、岩手県の賃金は全国に比べても低いので日々生活するのにも厳しい。高校生の子どももいるので大学進学費用等を考えるだけで不安。身体の調子が悪くても、我慢している状態。(41)
2. 現在はパート職員として従事しているので何とかやりくりしていますが、先々のこと特に介護が必要になった際の不安がありました。このパンフを見て不安が一層高まりました。(72)
3. 受診日を出来るだけ長めに設定してもらっている。軍拡に予算を回し社会保障を削る政治は許せない。政治の変革を。(81)
4. 医療は人権だと思う。医療費の心配なく、自分の希望する（文化的で最低限の生活が送れる医療）医療を受けられるようにして欲しい。また薬漬けの今の医療も方向転換して欲しい。(67)
5. 夫が認知症でデイサービスに週4回通所しているが、負担が増えると回数を減らさなければ生活できない。国民年金受給者です。(76)
6. 歯科矯正をいわれましたが、していません。所得が越えたので3人子どもがいても医療費補助が受けられず、アレルギーや歯科も継続して受診する事ができずにいます。所得制限の撤廃を希望します。(45)
10. 年金と自己負担を考えて欲しい。物価上昇で先が見えない不安で生活が楽しくなくなる。(75)
11. 従前の1割負担から2割負担となり、健康を守るため病院受診を減らすわけにいかず。年金生活では他の収入で補うということは不可能で、他の生活費を削るしかない。国の政策で国民の生活低下を行ってる。狂っている。(83)
12. 未就学児の子が二人いるが、医療費がほとんどかからず助かる。出生率を上げるために子育てしやすくするために社会保障を整備して欲しい。(39)
13. 子どもがいる人、高齢者など窓口負担が優遇されているが、本当は子どもを持つことすら経済的に諦めたりしているワーキングプアでシングルの人こそ優遇を受けたいと切に思う。(41)

岩手県保険医協会では、今回のアンケート結果をもとに、国や岩手県に対し、経済的な理由で受診できないことがないよう対策を求めていく所存です。全国調査の結果（中間集計）は全国保険医団体連合会のホームページをご覧ください。

<https://hodanren.doc-net.or.jp/info/news/2023-02-20/>



連絡先：岩手県保険医協会事務局

TEL 019 (651) 7341